

事業番号	10 02 01	事業改善シート（令和 7 年度実施事業分）	☐ 当初要求	☐ 当初予算案	☐ 補正予算案	☒ 点検
事業名	林業関連教育・研究開発の推進及び普及関係事業	部局	林務部	課・室	信州の木活用課	
		実施期間	S33 ～	E-mail	ringyo @ pref.nagano.lg.jp	

1 現状と課題

・林業大学校は昭和54年の開校以降、令和 5 年度末までに816人の卒業生を輩出している。しかし、近年全国で林業大学校の新設が相次いでいることから（H24: 4 校⇒R5末:27校）、学生確保を図るために学校の魅力を高めていくことが必要。
・適正な主伐と計画的な再造林等の施策を推進するとともに、長野県の強みであるカラマツやマツタケ等を活かした産業や山村の活性化に貢献するための試験研究・開発が必要。

2 事業目的

森林を活かす力強い林業・木材産業づくりのために、課題解決に向けた試験・研究や教育の充実を図り、健全な森林の育成や関連産業の効率的発展を目指す。

3 事業目的を達成するための取組

①林業大学校における次代の担い手の育成
・長野県林業の発展に寄与するために、林業後継者及び林業指導者を養成
・林業分野への就業を目指す学生に対して、就業に必要な技術や知識を習得するための資金として、補助金を給付
・学校環境衛生基準を遵守し、林業大学校生が安心して教育が受けられる環境の整備
②林業総合センターの試験研究・開発の促進
・林業・木材産業関係者の要請に応じられる研究研修施設の充実やコンプライアンスを重視したセンターの管理運営
・森林を育てる基礎となる優良な苗木の生産、多様な森林の育成管理技術、きのこ・山菜・精油等の特用林産物の生産技術、新たな技術を活用した木材製品の開発等に関する試験研究及び技術指導を実施
③森林づくり及び林業に関する普及啓発
・林業普及指導員を配置し、森林所有者等に対して森林施業等に関する技術・知識等の普及指導を実施
・体験学習の森、森林学習展示館を活用し、森林づくりや林業の重要性等に関する普及啓発を実施

4 成果指標

（推移の凡例 ↗：改善 ↘：悪化 →：変化なし —：数値なし）

No.	指標名	単位	R5年度	R6年度		R7年度		R7年度 目標値	達成 状況	目標値設定理由
			実績	実績	推移	実績	推移			
①	林業大学校卒業生で就職した者の林業関係分野への就業率	%	90.0	100.0	↗	95.0	↘	80.0	達成	林業大学校の卒業生が林業の担い手として、その知識等が活かせる指標とするために、過去の実績を基に設定
②	林業総合センターの研究成果の発表件数	件	98	123	↗	114	↘	80	達成	林業総合センターの研究・試験成果を広く周知活かすための指標として過去の実績を基に設定
③	体験学習の森の講座定員充足率	%	90.0	92.0	↗	92.0	→	85.0	達成	県民参加の森林林業講座の中身の充実を図るための指標として過去の実績を基に設定

5 本事業が貢献する総合 5 年計画の施策分野と達成目標

No.	施策分野（施策の総合的展開名）	達成目標 （☆印が付いているものは主要目標）	単位	直近 3 か年の状況						目標	
				年／ 年度	数値	年／ 年度	数値	年／ 年度	数値	年／ 年度	数値
2-1①	成長産業の創出・振興	☆林業産出額(うち木材生産)	百万円	2022 (R4)	8,790	2023 (R5)	7,484	2024 (R6)	7,668	2027 (R9)	7,170
2-3①	地域の建設業等における担い手の確保の推進	新規林業就業者数	人/年	2023 (R5)	147	2024 (R6)	117	2025 (R7)	128	2027 (R9)	120

6 事業コスト

（単位：千円、人）

区分	予算額					決算額	職員数
	前年度繰越	当初予算	補正予算等	合計 (予算現額)	うち一般財源		
R7年度	0	154,649	△ 26,921	127,728	86,765	118,332	84.9
R6年度	0	221,862	△ 35,293	186,569	151,357	179,828	84.9
R5年度	17,410	207,362	△ 60,323	164,449	96,388	157,385	84.1

事業番号	10 02 01	事業改善シート（令和7年度実施事業分）	☐ 当初要求	☐ 当初予算案	☐ 補正予算案	☒ 点検
事業名	林業関連教育・研究開発の推進及び普及関係事業	部局	林務部	課・室	信州の木活用課	

7 主な取組実績と成果

①林業大学校における次代の担い手の育成 ・令和7年度に新入生20名を迎え、カリキュラムに沿った適正な学校運営を実施。 ・森林・林業に関する多様な学びのニーズに応えるため、科目の新設や充実、進路に応じて選択できるコース制の再編や充実により、質の高い学びの機会を提供。 ・講堂に空調設備を導入し、学習環境を改善。 ・林業分野への就業を志す11人に補助金（生活資金）を給付。 ②林業総合センターの試験研究・開発の促進 ・適正な主伐と計画的な再造林に向けた省力化技術や優良苗木の生産、喫緊の課題である病虫害防除対策、獣害防除対策などの試験研究・技術開発を実施。 ・マツタケ等の人工栽培技術、ホンシメジ、シイタケ等の施設栽培技術、林地残材の精油利用など特用林産物の試験研究・技術開発を実施。 ・針葉樹のほか広葉樹やアカマツなどの未利用県産材の利用等に向けた木材の乾燥技術や、中高層建築物での県産材の活用に向けた部材開発などに関する試験研究・技術開発を実施。 ③森林づくり及び林業に関する普及啓発 ・各地域に配置された林業普及指導職員が、森林所有者、林業事業体、市町村等の関係者に対し、新たな知見等を踏まえ地域全体の森林の整備・保全や持続的な森林経営等に必要な技術・知識の普及・指導を実施。 ・体験学習の森や学習展示館を活用し、県民を対象とした森林教室を23回開催するなど、森林づくりの重要性等に関する普及啓発を実施。

8 成果指標の達成状況に関する要因分析

指標①	林業大学校卒業生で就職した者の林業関係分野への就業率	R6年度推移	↗	R7年度推移	↘	達成状況	達成
三林大対抗伐木選手権や日本伐木チャンピオンシップ等への参加、インターンシップや校外研修で林業現場を見学する機会の創出といった取組の結果、卒業生の95%が林業関係分野へ就職した。							
指標②	林業総合センターの研究成果の発表件数	R6年度推移	↗	R7年度推移	↘	達成状況	達成
研究発表会や機関誌への投稿等の機会を捉え積極的に研究成果を発表した結果、前年度実績を下回ったものの目標値の80件を上回った。							
指標③	体験学習の森の講座定員充足率	R6年度推移	↗	R7年度推移	→	達成状況	達成
HP、新聞、広報誌のほか、令和7年度よりSNS（Instagram等）で講座のPRを行ったことや、参加者の意見等を踏まえて講座内容の改善・充実を行った結果、新たな関心と呼び寄せることができ、充足率は目標値の85%を上回った。							

9 今後の事業の方向性

(1) 上記7、8及び県民の意見等を踏まえた課題
①林業大学校における次代の担い手の育成 林業への期待が高度化及び多様化しており、業界が求める担い手の育成に加え、近年、林業大学校の新設が相次いでいることから、学生確保を図るために、学校の魅力を高める必要がある。 ②林業総合センターの試験研究・開発の促進 試験研究で得られた成果や知見について、県民や関係者等に広く周知し、現場での活用につなげる必要がある。 また、試験研究に一定の期間を要する課題や新たな課題に対応するため、引き続き必要な試験研究・技術開発を進める必要がある。 ③森林づくり及び林業に対する普及啓発 森林づくりやそれを担う人材の育成、山村の活性化と県民の森林・林業への理解、参加を促すため、新たな知見等を踏まえた森林・林業に関する技術、知識の普及や森林施業の指導を継続する必要がある。

(2) 事業改善の方策

①林業大学校における次代の担い手の育成

木曽谷・伊那谷フォレストバレーの一翼を担う教育機関として、関係機関の連携による質の高い学びと交流機会の提供を通じ、次代の林業を支える人材育成に努める。

②林業総合センターの試験研究・開発の促進

試験研究で得られた成果や知見について研究発表会や広報媒体等を通じて幅広く発信するとともに、森林を育てる基礎となる優良な苗木の生産、多様な森林の育成管理技術、きのこ・山菜・精油等の特用林産物の生産技術、新たな技術を活用した木材製品の開発等に関する試験研究・技術開発を引き続き推進する。

③森林づくり及び林業に対する普及啓発

地域ごとの課題やニーズに対応した林業普及指導職員による技術・知識の普及・指導を継続するとともに、時代の変化に対応した森林学習展示館のリニューアルを行い、森林・林業への県民の理解と参加を促進するための普及啓発を実施する。

事業番号	10 02 01	細事業一覧（令和7年度実施事業分）			☐ 当初要求 ☐ 当初予算案 ☐ 補正予算案 ☒ 点検		
事業名	林業関連教育・研究開発の推進及び普及関係事業			部局	林務部	課・室	信州の木活用課

細事業 No.	細事業名			R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
1	林業大学校関係事業			63,119 千円	68,978 千円	64,672 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）			
1	林業大学校費	直接	・長野県林業の発展に寄与するために、林業後継者及び林業指導者を養成 在校生38人（1年生：18人、2年生20人）を指導、講堂に空調設備を導入。			
2	林業就業支援事業	補助金	・将来的に林業経営も担い得る人材として期待される者に補助金を給付 補助金給付者数：11人			

細事業 No.	細事業名			R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
2	研究開発の推進及び普及関係事業			94,266 千円	110,850 千円	53,660 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）			
1	林業改良普及事業	直接	・主伐・再造林推進研修、木材利用研修等の開催 ・林業普及指導員の研修、林業後継者育成のための指導 林業普及指導員研修会開催：7回、広報誌の発行			
2	林業総合センター管理費	直接	・林業・木材産業関係者の要請に応じられる研究研修施設の充実 ・コンプライアンスを重視した施設の管理運営 試験研究課題数（国費利用・県単）：17課題			
3	林業総合センター試験研究普及費	直接	・林業技術者など担い手の育成及び普及指導 ・優良な苗木の生産、森林の育成指導、森林病虫獣害への対策、特用林産物の生産技術、新たな技術を活用した木材製品の開発等の実施 試験研究課題数（国費利用・県単）：17課題			
4	林業総合センター体験学習の森事業費	直接	・体験学習の森、学習展示館を活用した森林づくりに対する普及啓発 ・体験学習の森の管理運営 森林教室：23回、森の勉強会：2回、林業体験講座：12回			